

企画委員長から賞状、記念品、および副賞として次期大会懇親会招待券の目録が贈呈され、ノミネートされた6名の会員(写真2)には、記念品として気象学会特製のマグカップが贈呈されました(デザイン:楢研一会員)。今回はさらに、まとまりの点で評価が高かった紫村会員の作品に対して、ベストポスター賞特別賞が贈呈されました。ベストポスター賞受賞作品(写真1)は、お手本として全会員に参考にしてもらう一方、講演企画の責任で次期大会(福岡大会)においても掲示していただくことになっています。

一般発表をポスター形式に移行して3年目の今期、ポスター発表は十分に定着しその長所短所を各会員が評価できる段階になりました。問題点としては、小数の発表しか聞けない、発表者が他の発表を見れないという意見や、1分間概要紹介に賛否両論の意見があるようです。今期は一部の要望に応じて5分間の一般口頭発表を例外的に認めました。ポスター発表の持つ気



写真2 ベストポスター賞の受賞式

楽さと十分な議論ができることの一方で、未完成で安易な発表が増えているとの可能性も否めません。この点は今後の検討課題として改善を図る必要があります。

(講演企画委員会)

## 会員の広場

### ベストポスター賞を受賞して

このたびはベストポスター賞に選んでいただきまして、とてもありがたく思っています。発表内容は、私が修士の頃からずっと取り組んでいる成層圏循環の年々変動と赤道QBOの関連について、今回は特に南半球の場合の解析結果を示したものでした。まだまとまった成果と言えるものではなく、とりあえず中間報告をして皆様からアドバイスをいただくという段階のものでしたから、正直に言えば、内容だけで賞をいただけるレベルにはなかつたと思います。賞をいただいた理由として思いあたる点の1つに、AOプリンターを利用してポスターを1枚の紙に作成したということがあります。他のノミネート作品にも、大きな用紙を使用したものがありました。こうするとレイアウトが自由になるというメリットがあります。大きな領域にレイアウトして分割印刷し、それを後でつなぎ合わせる場合も、もちろん自由なレイアウトは可能ですが、大きな用紙を使うことで、後からつなぎ合わせる

手間が省け、見た目にもすっきりしました。もっとも、高価な道具ですし、どこでも使えるというわけにはいかないかもしれません。私の場合は、つい最近導入されたプリンターを試用させてもらえるという幸運に恵まれたおかげで、今回のようなポスターを作成することができました。

私が工夫した点としては他に、字をなるべく大きくしたということがあります。小さい字でたくさん書き込まれては読みづらいだろうと思ったからです。図も大きくしたため、書き込める字数は非常に少なくなってしまいました。そのために犠牲になった部分もあります。研究の背景はほとんど何も書いていないに等しい状態でしたし、図のキャプションもなく、代わりにその図から見て取れる特徴を一言ずつ添えただけでした。あとは口頭で説明すればいいや、というわけです。この点では、これまでに受賞された方の「口頭説明がなくても内容が理解できるように」という路線とは逆に行くことになりました。学術的な研究発表に本来必要とされる情報までおろそかにしてしまった感

があるので、さすがに行き過ぎだとお怒りになる方もいらっしゃるかもしれません。そういう意味では、書く内容をもっと吟味する必要があったと思います。それでもやはり、大幅に情報量を減らして字を大きくすることで見やすくしたという点は、意味があったと思います。

それから、色づかいも多少こだわりました。明るく目立つよう、しかし派手すぎて見にくくならないよう考えて、タイトルは枠を抑えめのピンクで文字が黄色、全体の背景は薄めのラベンダーといった、パステル系の色を選びました。章立ての見出しは濃紫、説明文は目立たなくてもいいから読みやすくなければいけないと思い、黒で書きました。さらに、図中で使うカラートーンや折れ線の色も、桃色に近い赤と水色に近い青に統一したことで、すっきりした感じになったと思います。

こうして書いてきますと、他の方が受賞していても

全く不思議ではなく、やはり私は運が良かったのだ、という気持ちになります。投票してくださった方々をはじめ、いろいろな方の力添えがあってこそその受賞でした。特に、指導教官の廣田勇教授をはじめとして、研究室の皆様にはポスターの発表内容からプリンターやパソコンソフトの使い方にいたるまで、たくさんのアドバイスをいただきました。ありがとうございます。また、AOプリンターを使わせていただいたことは、やはり大きかったと思います。京大の地球物理学教室技術情報委員会に感謝します。最後になりましたが、本企画の運営に関わられました全ての方に感謝します。次回秋季大会にも掲載して下さるとのこと、その頃までに自分の研究がどれだけ進んだかをはっきり思い知らされそうで、これは大変だと気を引き締めている次第です。今後もこの企画がますます良いものになるよう願っています。

(京都大学大学院理学研究科 内藤陽子)

## 気象技術講習会開催のお知らせ

(社)日本気象学会は(財)気象業務支援センターとの共催で、初心者向けに「気象学の基礎」の第2回講習会を下記の要領で8月から実施する。

講習の終了後、希望者には試験を行い、合格者には「修了証」を発行する。

### 1. 講習会の名称

気象技術講習会「気象学の基礎」課程(第2回)

### 2. 講習会場

(財)気象業務支援センター大会議室  
東京都千代田区神田錦町3-17 東ネンビル4F  
(地下鉄東西線竹橋駅下車徒歩3分)

### 3. 期間

8月18日(水)から12月8日までの毎週水曜日(祝祭日を除く)15時~17時の全15回。(最終回は試験で、希望者のみ)

### 4. 講習内容

気象技術習得のための気象学とそれに関する数学・物理の基礎を解説する入門講座

### 5. 申し込み方法及び申込先

はがきに

住所、氏名、年齢、電話番号及び「気象学の基礎課程受講希望」と書いて

〒101-0054

東京都千代田区神田錦町3-17 東ネンビル  
(財)気象業務支援センター 講習会係まで申し込む。  
締め切りは7月15日(木)(当日消印有効)。  
定員は40名で、定員になり次第締め切る。

### 6. 受講料

教材費込みで1人4万円。

詳しい内容は(財)気象業務支援センター及び(社)日本気象学会のホームページに掲載する他、次の所へ。

(財)気象業務支援センター講習会係

TEL: 03-5281-0440

FAX: 03-5281-0443

E-MAIL: methiroba@jmbsec.or.jp

なお、気象技術専門課程についても開催を検討しており、細部が固まり次第掲載する。